東京外国語大学『語学研究所論集』第 16 号 (2011.3), 75-86

〈特集「モダリティ」〉

ドイツ語

成田 節

以下のドイツ語の例文では，[1]モダリティの表現として Modalverben「話法の助動詞」が用いられることが多いが，話法の助動詞を用いずに定動詞を接続法にしたり，定動詞は直説法のまま副詞を添加したりすることによって様々なモダリティを表すこともある．

グロスは原則として日本語で付けたが zu 不定詞（英語の to 不定詞にほぼ相当）や非人称主語 es（英語の it に相当）など，英語を用いたところもある．[2]

(1)（その仕事が終わったら）もう帰ってもいいですよ．

a. Sie　dürfen　schon　nach Hause　fahren.
あなた$_{主}$　～してよい$_{現}$　もう　家に　行く$_{不定}$
「あなたはもう帰宅してよい．」（許可）

b. Sie　können　schon　nach Hause　fahren.
あなた$_{主}$　～できる$_{現}$　もう　家に　行く$_{不定}$
「あなたはもう帰宅できる．」（状況可能）

dürfen は主語が「許可」を得ていることを表す．a は話し手が，主語である聞き手 Sie に帰宅を許可するという意味である．b の können は主語の行為が「可能」であることを表す．können は，(1)b のように一定の状況のもとである行為が可能になるという「状況可能」でも，(13)a のように主語にある行為の遂行能力があるという「能力可能」でも用いられる．

(2)（腐っているから，あなたは）それを食べてはいけない．／それを食べるな．

a. Sie　können　den　Fisch　nicht　mehr　essen.
あなた$_{主}$　～できる$_{現}$　**定冠**$_{対}$　魚$_{対}$　**否定**　もう　食べる$_{不定}$
「（あなたは）その魚はもう食べられない．」（状況可能の否定）

b. Sie　sollten　den　Fisch　nicht　mehr　essen.
あなた$_{主}$　～するべき$_{接II}$　**定冠**$_{対}$　魚$_{対}$　**否定**　もう　食べる$_{不定}$
「（あなたは）その魚はもう食べない方がいい．」（非実行の推奨）

---

[1] 例文はすべて本学教員のヴィンチェンツォ・スパニョーロ氏に目を通していただいた．

[2] 略語は以下の通り．主：主格，対：対格，与：与格；現：直説法現在形，過去：直説法過去形，現在完了：現在完了形，接Ⅰ：接続法第Ⅰ式，接Ⅱ：接続法第Ⅱ式，命令：命令形，不定：不定形，完了不定：完了不定形，過分：過去分詞，**定冠**：定冠詞，**不定冠**：不定冠詞，**否定冠**：否定冠詞，**再代**：再帰代名詞，**否定**：否定辞，**小辞**：分離前綴り

c. Essen　Sie　den　Fisch　[lieber]　nicht!
食べる$_{接I}$ あなた$_{主}$ **定冠**$_{対}$ 魚$_{対}$ [むしろ] **否定**
「(あなたは) その魚は食べるな [食べない方が良い].」(接続法第Ⅰ式の要求話法)

d. Iss　den　Fisch　[lieber]　nicht!
食べる$_{命令}$ **定冠**$_{対}$ 魚$_{対}$ [むしろ] **否定**
「(おまえは) その魚を食べるな [食べない方が良い].」(命令形)

e. Sie　dürfen　den　Fisch　nicht　mehr　essen.
あなた$_{主}$ ～してよい$_{現}$ **定冠**$_{対}$ 魚$_{対}$ **否定** もう 食べる$_{不定}$
「(あなたは) その魚をもう食べてはいけない.」(禁止＝許可の否定)

a は(1b)のような「状況可能」の否定. b の sollten は sollen の接続法第Ⅱ式で「するのがよい」という「推奨」を意味する. c の Essen Sie は接続法第Ⅰ式の「要求話法」だが, 実質的には２人称敬称に対する「命令」を表す. d は２人称親称の「命令形」である. e は「腐っているから」などの理由に関連付けない禁止 (＝許可の否定) になるが,「魚を食べる」という事柄を禁じることの不自然さからか, 母語話者からは「不自然な表現だ」との反応があった.

(3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない～帰らざるを得ない.

a. Wir　müssen　langsam　nach Hause　fahren.
私達$_{主}$ ～ねばならない$_{現}$ そろそろ 家に 行く$_{不定}$
「私達はそろそろ帰らなければならない.」(必要性)

müssen はさまざまな条件における必然性・必要性を表す. (3)a の場合は「時間が遅くなった」という状況から生じた必要性を表しているが, Ich musste weinen.「私は泣かずにいられなかった.」などでは「感情を制御できず, 泣かずにいられなかった」という必然性を表す.

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ.

a. Du　solltest　[besser]　einen　Regenschirm　mitnehmen.
君$_{主}$ ～するべき$_{接II}$ [より良い] **不定冠**$_{対}$ 雨傘$_{対}$ 持っていく$_{不定}$
「きみは傘を持っていく方が良い.」(推奨)

b. Es　ist　besser,　wenn　du　einen　Regenschirm　mitnimmst.
それ$_{主}$ だ$_{現}$ より良い …ならば 君$_{主}$ **不定冠**$_{対}$ 雨傘$_{対}$ 持っていく$_{現}$
「きみは傘を持っていく方が良い.」(特定の行為を「より良い」と判断)

c. Nimm besser einen Regenschirm mit.
持っていく$_{命令}$ より良い 不定冠$_{対}$ 雨傘$_{対}$ 小辞
「きみは傘を持っていく方が良い.」(命令文による推奨)

aは「推奨」のsolltestと「より良い」のbesserの組合せ. 推奨のsolltestだけでも「～ほうが良い」に相当する意味になる. bは「傘を持っていくならば, その方が良い」という判断を表す. 主文のist(英:is)も従属文のmitnimmst(<mitnehmen)も直説法現在形. cは2人称親称の命令形nimm … mit(<mitnehmen)とbesser「より良い」の組合せで「推奨」を表している.

(5) 歳を取ったら, 子供の言うことを聞くべきだ/ものだ.
a. Man soll auf seine Kinder hören, wenn man alt geworden ist.
人$_{主}$ ～するべき$_{現}$ 自分の子供を 聞く$_{不定}$ …なら 人$_{主}$ 年寄り なる$_{現完}$
「(人は一般に) 年を取ったら子どもの言うことを聞くべきだ.」(道理)
b. Man hat auf seine Kinder zu hören, wenn man alt geworden ist.
人$_{主}$ 持つ$_{現}$ 自分の子供を to 聞く$_{不定}$ …なら 人$_{主}$ 年寄り なる$_{現完}$
「(人は一般に) 年を取ったら子どもの言うことを聞くものだ.」(道理)
c. Man sollte auf seine Kinder hören, wenn man alt geworden ist.
人$_{主}$ ～するべき$_{接II}$ 自分の子供を 聞く$_{不定}$ …なら 人$_{主}$ 年寄り なる$_{現完}$
「(人は一般に) 年を取ったら子どもの言うことを聞く方が良い.」(推奨)

「…するべきだ/…するものだ」はaのようなsollenの直説法や, bのようなhaben+zu不定詞(英語のhave + to不定詞に相当)で表せるが, 強い命令のような響きになる. (4)aと同様, cのように「推奨」のsollteで表す方が穏やかな表現となるだろう. なおauf +対格+hörenで「…の言うことを聞く」という意味を表す.

(6) (お腹が空いたので, 私は) 何か食べたい.
a. Ich möchte etwas essen.
私$_{主}$ ～たい$_{接II}$ なにか$_{対}$ 食べる$_{不定}$
「私は何か食べたい.」(希望)
b. Ich würde gern etwas essen.
私$_{主}$ ～だろう$_{接II}$ 好んで なにか$_{対}$ 食べる$_{不定}$
「私は何か食べたい.」(希望)

「希望」はaのようなmöchteで表すのが基本. möchteは助動詞mögenの接続法第II式.

使用頻度が高く，最近は möchte という語形を見出し語として挙げている辞書も多い．b は助動詞 werden の接続法第Ⅱ式と gern「好んで」の組合せで希望を表す表現．(6)b の他に，Ich hätte gern ein Glas Bier.「ビールを一杯お願いします＜私は一杯のビールが欲しい」などもある．いずれも制御不可能な事態を表すというわけではない．また，原則として人称の制限はなく，3 人称でも Er möchte etwas essen.「彼は何か食べたいんだ/食べたがっている」のように使える．

(7) 私が持ちましょう．

a. Das trage ich.
それ$_{対}$ 運ぶ$_{現}$ 私$_{主}$
「(それは) 私が運びます.」(1 人称の意志)

b. Ich trage das Gepäck.
私$_{主}$ 運ぶ$_{現}$ その荷物$_{対}$
「私がその荷物を運びます.」(1 人称の意志)

c. Ich helfe Ihnen mit dem Gepäck.
私$_{主}$ 手伝う$_{現}$ あなた$_{与}$ その荷物について
「(私は) その荷物を運ぶのを手伝います.」(1 人称の意志)

「私が持ちましょう」などの眼前の事態に関する 1 人称の意志は直説法現在形で表す．a では目的語 das が文頭，b と c では主語 ich が文頭に置かれているが，主語の位置は「1 人称の意志」とは関連しない．なお c は「私は・あなたを・その荷物に関して・手伝う」という表現．helfen（英：help）の目的語は与格になる．

(8) じゃあ，一緒に昼ごはんを食べましょう．

a. Also, essen wir zusammen zu Mittag!
では 食べる$_{接Ⅰ}$ 私達$_{主}$ 一緒に 昼食を
「じゃあ，(私達は) 一緒に昼食を食べよう.」(勧誘)

b. Also, lass uns zusammen zu Mittag essen!
では させる$_{命令}$ 私達$_{対}$ 一緒に 昼食を 食べる$_{不定}$
「じゃあ，(私達は) 一緒に昼食を食べよう.」(勧誘)

1 人称複数の接続法第Ⅰ式で「勧誘」を表すことができる．この場合，a のように定動詞－主語という語順になる．あるいは b のように，使役の lassen の命令形を用いて「私達に～させろ」という組合せで勧誘を表すこともできる．

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか？

a. Wollen　wir　zusammen　zu Mittag　essen?
　～するつもり$_{現}$　私達$_{主}$　一緒に　昼食を　食べる$_{不定}$
　「(私達は) 一緒に昼食を食べようか？」(相手の意志を問う)

b. Wollen　Sie　mit mir　zu Mittag　essen?
　～するつもり$_{現}$　あなた$_{主}$　私と　昼食を　食べる$_{不定}$
　「私と一緒に昼食を食べる？」(相手の意志を問う)

c. Haben　Sie　[nicht]　Lust,　zusammen　zu Mittag　zu　essen?
　持つ$_{現}$　あなた$_{主}$　**[否定]**　する気$_{対}$　一緒に　昼食を　to　食べる$_{不定}$
　「私と一緒に昼食を食べる気ない？」(相手の意志を問う)

d. Haben　Sie　keine　Lust,　zusammen　zu Mittag　zu　essen?
　持つ$_{現}$　あなた$_{主}$　**否定冠**$_{対}$　する気$_{対}$　一緒に　昼食を　to　食べる$_{不定}$
　「私と一緒に昼食を食べる気がないのか？」

相手の意向が不明な場合の「勧誘」は a のように「意思」を表す wollen（直説法現在形）を用いて１人称複数で表せる．もちろん b のように２人称で相手の意思を尋ねることもできる．wollen ではなく，c のように Lust「…する気」を用いることもできる．この場合 nicht（英：not）を添えることもできるが，この nicht は文字通りの「否定」を表すのではなく，肯定の返事を期待する気持を表している．これに対して d のように否定冠詞 kein-を用いると，「…する気がないのか？」という意味になってしまう．

(10) 明日，良い天気になるといいなあ．／明日は良い天気になってほしいなあ．

a. Ich　hoffe,　dass　morgen　schönes　Wetter　ist.
　私$_{主}$　望む$_{現}$　…こと　明日　良い$_{主}$　天気$_{主}$　だ$_{現}$
　「私は，明日良い天気であることを期待する．」

b. Ich　wünsche　mir,　dass　morgen　schönes　Wetter　ist.
　私$_{主}$　願う$_{現}$　**再代**$_{与}$　…こと　明日　良い$_{主}$　天気$_{主}$　だ$_{現}$
　「私は，明日良い天気であることを願う．」

c. Hoffentlich　ist/　wird　morgen　schönes　Wetter.
　望むらくは　だ$_{現}$/ なる$_{現}$　明日　良い$_{主}$　天気$_{主}$
　「明日良い天気だと/になると良いなあ．」

３人称を主語とし，制御不可能な事態の実現を望むという意味での「希望」は，動詞 hoffen「望む」や wünschen「願う」，副詞 hoffentlich「望むらくは」で表すことができる．a から c の定動詞はいずれも直説法現在形である．

(11) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう.

a. [Sag ihm,] er soll dies dorthin bringen.
[言う$_{命令}$ 彼$_{与}$] 彼$_{主}$ ～べき$_{現}$ これ$_{対}$ そこへ 持っていく$_{不定}$
「彼がこれをそこへ持って行くべきだ（と彼に伝えろ）.」

b. ?Lass ihn dies dorthin bringen.
させる$_{命令}$ 彼$_{対}$ これ$_{対}$ そこへ 持っていく$_{不定}$
「彼にこれをそこへ持って行かせろ.」

c. ?Lass dies von ihm dorthin bringen.
させる$_{命令}$ これ$_{対}$ 彼に そこへ 持っていく$_{不定}$
「これを彼にそこへ持って行かせろ.」

主語以外の誰かの意志を表す助動詞 sollen を用いる．a の sollen は話者の意志を表し，「彼がこれをそこへ持っていくこと」を「私が望んでいる」ということになる．ただし母語話者によれば，a は sag ihm「…と彼に伝えろ」などを先行させる方が安定するとのことである．また，理屈の上では b や c のように使役の lassen の命令形を用いて「彼にこれをそこへ持って行かせろ」という表現も可能なはずだが，母語話者によれば b や c は不自然だとのことであった.

(11)（私はここで待っているから）すぐにそれを持って来なさい.

a. Bringen Sie es mir gleich.
持ってくる$_{接I}$ あなた$_{主}$ それ$_{対}$ 私$_{与}$ すぐに
「それをすぐに私のところへ持ってきなさい.」（接続法第Ⅰ式の要求話法）

b. Bring es mir gleich.
持ってくる$_{命令}$ それ$_{対}$ 私$_{与}$ すぐに
「それをすぐに私のところへ持ってこい.」（命令形）

a の Bringen Sie は(2)c の Essen Sie と同じ接続法第Ⅰ式の要求話法．b は bringen「持ってくる」の命令形（２人称親称）.

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？

a. Kann ich bitte den Kugelschreiber benutzen?
～できる$_{現}$ 私$_{主}$ 丁寧 定冠$_{対}$ ボールペン$_{対}$ 使う$_{不定}$
「（私は）そのボールペンを使うことができますか？」（使用の可能性を問う）

b. Darf ich bitte den Kugelschreiber benutzen?
～してよい$_{現}$ 私$_{主}$ 丁寧 定冠$_{対}$ ボールペン$_{対}$ 使う$_{不定}$
「（私は）そのボールペンを使っても良いですか？」（使用の許可を問う）

c. Könnten Sie mir bitte den Kugelschreiber kurz leihen?
～できる$_{接II}$ あなた$_{主}$ 私$_{与}$ **丁寧** **定冠**$_{対}$ ボールペン$_{対}$ ちょっと 貸す$_{不定}$
「(あなたは私に) そのボールペンをちょっと貸すことができますか？」(使用の許可を問う)

aは「ボールペンを使う可能性」を尋ねる表現，bは「ボールペンを使う許可」を尋ねる表現．cは「ボールペンを貸す可能性」が相手にあるか尋ねる表現．cのように助動詞を接続法第II式にすると丁寧さが増す．副詞bitteも丁寧さを増す働きを持つ．

(13) あの人は中国語が読めます．／あの人は中国語を読むことができます．
a. Er kann Chinesisch lesen.
彼$_{主}$ ～できる$_{現}$ 中国語$_{対}$ 読む$_{不定}$
「彼は中国語が読める．」(能力可能)

(14) 明かりが暗くて，ここに何て書いてあるのか、読めない．
a. Ich kann das nicht lesen, das Licht ist so schwach hier.
私$_{主}$ ～できる$_{現}$ これ$_{対}$ **否定** 読む$_{不定}$ **定冠**$_{主}$ 灯り$_{主}$ である$_{現}$ とても 弱い ここ
「私はこれが読めない．ここは灯りがとても弱い［ので］．」(状況可能)

(13)aの能力可能も，(14)aのような状況可能も共に助動詞können で表す．

(15)（朝早く出発したから）彼らはもう着いているはずだ．／もう着いたに違いない．
a. Sie müssen jetzt schon dort angekommen sein.
彼ら$_{主}$ ～にちがいない$_{現}$ 今 もう そこ 到着する$_{完了不定}$
「彼らは今ごろもうそこに着いているにちがいない．」(強い推測)
b. Sie sind sicher jetzt schon dort angekommen.
彼ら$_{主}$ **完助**$_{現}$ きっと 今 もう そこ 到着する$_{過分}$
「彼らは今ごろもうそこに着いているにちがいない．」(強い推測)

「確信」や「強い推測」はaのように助動詞müssen「～にちがいない」を用いる他に，bのように定動詞は直説法のまま，sicher「きっと」という副詞を用いて表すことができる．

(16)（あの人は）今日はたぶん来ないだろう．
a. Er wird wahrscheinlich heute nicht kommen.
彼$_{主}$ ～だろう$_{現}$ おそらく 今日 **否定** 来る$_{不定}$
「彼はおそらく今日は来ないだろう．」(推量)

b. Er　kommt　wahrscheinlich　heute　nicht.
彼$_{主}$　来る$_{現}$　おそらく　今日　**否定**
「彼はおそらく今日は来ないだろう.」(推量)

推量は助動詞 werden「～だろう」を用いる他に，定動詞は直説法にしたまま wahrscheinlich「おそらく」などの副詞を用いて表すことができる．a のように両者を組み合わせて用いることも多い．この werden を「話法の助動詞」と考える立場と，「未来の助動詞」と考える立場がある．

(17) 彼らがまだ来ないなんて，きっと途中で車が壊れたんじゃないか.
a. Sie　sind　noch　nicht　da?　Ihr　Auto　ist　wohl　kaputt.
彼ら$_{主}$　いる$_{現}$　まだ　**否定**　そこに　彼らの$_{主}$　車$_{主}$　だ$_{現}$　おそらく　壊れた
「彼らがまだ来ていない？車がおそらく壊れたのだろう.」(推量)
b. ... Ihr　Auto　wird　wohl　kaputt gegangen sein.
彼らの$_{主}$　車$_{主}$　～だろう$_{現}$　おそらく　壊れた$_{完了不定}$
「(彼らがまだ来ていない？) 車がおそらく壊れたのだろう.」(推量)
c. ... Vielleicht　hatten　sie　eine　Panne.
ひょっとすると　持つ$_{過去}$　彼ら$_{主}$　**不定冠**$_{対}$　故障$_{対}$
「(彼らがまだ来ていない？) ひっとしたら (車が) 故障したのかな.」(推量)

a ～ c の第２文はいずれも推量の表現となっている．a は動詞の直説法 ist と副詞 wohl「おそらく」の組合せ，b は推量の助動詞 werden と wohl の組合せ，c は動詞の直説法と副詞 vielleicht「ひょっとしたら」の組合せとなっている．

(18) さあ，(昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし，いないかもしれない.
a. Der　kann　zu Hause　sein,　aber　auch　nicht　zu Hause　sein.
あいつ$_{主}$　～かもしれない　家に　居る$_{不定}$しかし　また　**否定**　家に　居る$_{不定}$
「あいつは家にいるかもしれないが，いないかもしれない.」(推量)
b. Vielleicht　ist　er　zu Hause,　vielleicht　aber　auch　nicht.
ひょっとすると　居る$_{現}$　彼$_{主}$　家に　ひょっとすると　しかし　また　**否定**
「ひっとしたら彼は家にいるかもしれないが，いないかもしれない.」(推量)

「可能性」は a のように助動詞 können で表すことができる．b のように動詞は直説法現在形のままで，vielleicht「ひょっとすると」などの副詞を添えることでも可能性を表すことができる．

(19)（額に触ってみて）どうもあなたは熱があるようだ.

a. Sie scheinen Fieber zu haben.
あなた$_{主}$ 思われる$_{現}$ 熱$_{対}$ to 持つ$_{不定}$
「あなたには熱があるように思われる.」（印象に基づく判断）

b. Ich glaube, Sie haben Fieber.
私$_{主}$ 思う あなた$_{主}$ 持つ 熱$_{対}$
「（私は）あなたは熱があると思う.」（見解）

a の scheinen「思われる」と zu 不定詞の組合せで，主語から受ける印象に基づく判断が表せる．b では ich glaube「私は思う」で，Sie haben Fieber「あなたは熱がある」が話し手の見解であることを表しているが，その見解が何に基づくものであるかは述べられていない.

(20)（天気予報によれば）明日は雨が降るそうだ.

a. Morgen soll es regnen.
明日 ～そうだ$_{現}$ it 雨が降る$_{不定}$
「明日は雨が降るそうだ.」（伝聞）

「伝聞」の表現には sollen を用いる．また「天気予報によれば」は nach dem Wetterbericht や laut Wetterbericht などの前置詞句で表せる.

(21) もしお金があったら，あの車を買うんだけれどなあ.

a. Ich würde mir das Auto kaufen, wenn ich Geld hätte.
私$_{主}$ ～だろう$_{接II}$ **再代**$_{与}$ **定冠**$_{対}$ 車$_{対}$ 買う$_{不定}$ …なら 私$_{主}$ お金$_{対}$ 持つ$_{接II}$
「（私に）お金があれば，あの車を買うのだが.」（反実仮想）

事実に反する事柄を仮想的に表すには接続法第Ⅱ式を用いる．kaufen「買う」などの動詞そのものを接続法第Ⅱ式にする代わりに，a のように助動詞 werden の接続法第Ⅱ式 würde と kaufen の組み合わせを用いることも多い.

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら，私はそこにたどり着けなかったでしょう.

a. Ich wäre nicht dorthin gekommen, wenn Sie mir den Weg nicht
私$_{主}$ **完助**$_{接II}$ **否定** そこに 着く$_{過分}$ …なら あなた$_{主}$ 私$_{与}$ **定冠**$_{対}$ 道$_{対}$ **否定**

gezeigt hätten.
教える$_{過分}$ **完助**$_{接II}$

「(あなたが) 道を教えてくれなかったら，私はそこに着かなかっただろう.」

(過去の反実仮想)

b. Ich hätte nicht dorthin kommen können, wenn Sie mir den Weg nicht
私$_{主}$ 完助$_{接II}$ 否定 そこに 着く$_{不定}$ できる$_{過分}$…なら あなた$_{主}$ 私$_{与}$ 定冠$_{対}$ 道$_{対}$ 否定
gezeigt hätten.
教える$_{過分}$ 完助$_{接II}$
「(あなたが) 道を教えてくれなかったら，私はそこに着けなかっただろう.」

(過去の反実仮想)

過去の事実に反する事柄を仮想的に表すには，完了形（完了の助動詞と本動詞の過去分詞の組合せ）を使い，完了の助動詞を接続法第Ⅱ式にする．a では主文の wäre ... gekommen および従属文の gezeigt hätten がそれに当たる．b の主文では「着けなかった」の可能の意味を明示するために助動詞 können「できる」が付け加わっている．hätte ... kommen können の können は過去分詞の「代替不定詞」である．

(23)（あの人は）街へ行きたがっている.

a. Er möchte in die Stadt fahren.
彼$_{主}$ ～したい$_{接II}$ 街へ 行く$_{不定}$
「彼は街へ行きたがっている.」(希望)

b. Er will in die Stadt fahren.
彼$_{主}$ ～するつもり$_{現}$ 街へ 行く$_{不定}$
「彼は街へ行くつもりだ.」(意思)

「希望」を表す möchte「～したい」は主語が３人称でも問題なく使うことができる．「意思」を表す b の will も同様である．

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ.

a. Lass mich auch etwas davon trinken!
させる$_{命令}$ 私$_{対}$ も いくらか それを 飲む$_{不定}$
「僕にもそれを少し飲ませろ.」(命令)

b. Lass mich auch mal probieren!
させる$_{命令}$ 私$_{対}$ も 緩和 試飲する$_{不定}$
「僕にもちょっと飲ませてくれよ.」(命令)

lass は lassen「～させる」の命令形．被使役者は対格になる（mich）．b のように mal を添加すると命令の語調が緩和される．

(25) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう． (11)

a. Diese Sache soll er hinbringen.
この$_{対}$ 物$_{主}$ ～べき$_{現}$ 彼$_{主}$ 持っていく$_{不定}$
「これは彼が持っていくべきだ.」

sollen は主語以外の人物の意思を表す．(25)a は「これを彼が持っていく」ことを話者の意思として表した文である．

(26) そのテーブルの上のお菓子を後で食べなさい．

a. Iss den Kuchen auf dem Tisch später.
食べる$_{命令}$ **定冠**$_{対}$ お菓子$_{対}$ テーブルの上 後で
「テーブルの上のお菓子を後で食べなさい.」（親称単数の命令）

b. Esst den Kuchen auf dem Tisch später.
食べる$_{命令}$ **定冠**$_{対}$ お菓子$_{対}$ テーブルの上 後で
「テーブルの上のお菓子を後で食べなさい.」（親称複数の命令）

「あとで～せよ」という意味の未来における命令も(11)と同じく命令形で表す．

(27) もっと早く来ればよかった．

a. Ich hätte früher kommen sollen!
私$_{主}$ **完助**$_{接II}$ もっと早く 来る$_{不定}$ ～べき$_{過分}$
「私はもっと早く来るべきだった.」（過去の反実仮想）

b. Wenn ich doch früher gekommen wäre!
…なら 私$_{主}$ やはり もっと早く 来る$_{過分}$ **完助**$_{接II}$
「（私は）もっと早く来ていればなあ.」（過去の反実仮想）

a は sollen「～するべき」を使い，完了の助動詞を接続法第Ⅱ式にして「～するべきだった（がしなかった）」という意味の表現．b は「もしもっと早く来ていたなら」という従属文だけで後悔の念を表す表現．どちらも過去の反実仮想の文．

(28) あなたも一緒に行ったら（どうですか）？

a. Wie wäre es, wenn Sie mitfahren würden?
どう である$_{接II}$ それ$_{主}$ …なら あなた$_{主}$ 一緒に行く$_{不定}$ **接Ⅱ**

「あなたも一緒に行くとしたら，どうでしょうか.」

b. Sie　können　gerne　mitfahren.

あなた$_{主}$　～できる$_{現}$　どうぞ　一緒に行く$_{不定}$

「あなたも一緒に行けますよ.」

a は「あなたも一緒に行ったら」を従属文に，「どうですか？」を主文にした表現であり，母語話者によれば，誘いかけとしては固すぎる表現だとのことである．とは言え，日本語のように「あなたも一緒にいったら？」だけで用いられることは稀なようだ．従属文のみの形式は，(27)b のような「…だったらなあ」という後悔の表現や(29)a のような反語的表現としてなら用いられる．

(29) そんなことオレが知るか！

a. Wenn　ich　das　wüsste!

…なら　私$_{主}$　それ$_{対}$　知っている$_{接II}$

「おれがそれを知っているなんて！」

wissen「知っている」を接続法第Ⅱ式として，「私がそれを知っているとしたら...」という従属文のみで，「知るはずがない」ということを表す，反語的表現.

(30) これを作った（料理した）のは，お母さんだよね？　いいえ，私が作ったのよ.

a. Diese　Suppe　hat　doch　deine　Mutter　gekocht,　oder?

この$_{対}$　スープ$_{対}$　**完助**$_{現}$　だよね　君の$_{主}$　母親$_{主}$　調理する$_{過分}$　でしょう

「このスープは（君の）お母さんが作ったんだよね，そうでしょう？」

– Nein,　die　habe　**ich**　gekocht.

いいえ　それ$_{対}$　**完助**$_{現}$　私$_{主}$　調理する$_{過分}$

「いいえ，それは私が作りました.」

「～でしょ」「～だよね」は a の文末の oder? の他に，nicht?，nicht wahr?などで表現できる．いずれも上昇イントネーションで読む．また疑問文中の doch も相手に同意を求める気持ちを表す.